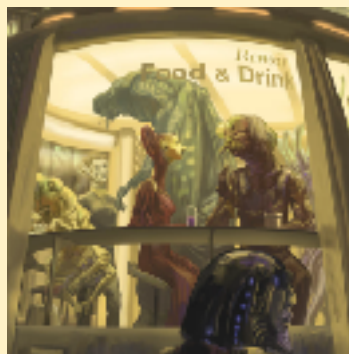
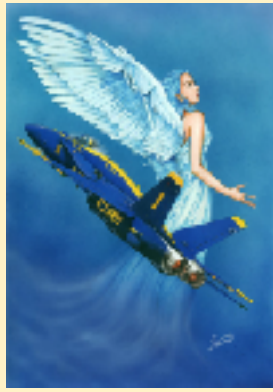




会報

日本イラストレーター協会では、日本全国あるいは世界各地で活躍している皆様に JIAの活動を様々な形でお知らせしています。今回は PDFの形式の会報で、新年度の理事をご紹介します。



●二〇〇九年のイベント

●JIAの歩み

●二〇〇八年度会計報告

●理事長挨拶
蟹江隆広 (東京都)

渡辺悟志 (茨城県)
りょう (神奈川県)

羽尻利門 (徳島県)
若林やすと (神奈川県)

高橋和会 (東京都)
つしまひろし (東京都)

小加本行広 (神奈川県)
栗月那未 (神奈川県)

えのき志保 (東京都)
おじゅらりか (東京都)

●理事挨拶 (五十音順)

※はじめに



理事えのき志保 (東京都)

とにかく子供の頃から絵を描くことが大好きだったらしい。紙と描くモノさえ与えておけば、もくもくと描いていたと母から聞いている。数学や社会などは授業の時間が百万時間に感じられたが、図工や美術の時間はアツと言間に過ぎた。描く絵は褒められ、賞を取り校内に飾られた。アタマの中が単純な作りなので褒められるとよりいっそう伸びた(ように思う)。

小学校三年生のとき運動会で使うクラスの旗(縦一メートル横一、五メートルと当時の私にとってはかなり大きいサイズのもの)を作る事になり各自原画を描く。皆の投票で私の描いた豹の絵と、佐藤君の描いたライオンの絵が残った。負けたと思った。豹を選んだ自分を呪った。

だって獅子は百獣の王だ。案の定、ライオンは動物の中で一番強いから運動会で勝つぞだという意見が多数出た。負けず嫌いだ、引き際がアツサリの私は迷わず佐藤君の獅子に一票。目をつぶって手をあげた。目つぶりが投票が終わり黒板を見てビツクリした。なんと大差で私の豹が勝っていたのだ!しかしそこからが試験の始まり。原画を描いた人がクラス皆の仕事を決め、段取りし、まとめ上げるよう先生は指示していたからだ。自分の絵が選ばれたからといって浮かっているヒマはなかった。

もともと引つ込み思案でおとなしい性格の私に、皆の先頭に立つ様な事が出来るのか?今思うとそんな性格の私に自信を持たせようと先生が仕組んだワナだったのではないかとさえ思えてくる。



いじめっ子の前田君に意見を述べる時に足が震えたのを今でも鮮明に覚えている。ドでかい仕事を任せられオドオドヘナヘナの私に皆の同情が集まり、なんとか協力を得る事ができた。豹のクラス旗が青空にひるがえった時のちよっぴり照れ臭く誇らしい気持ち忘れられない。その時の皆で一つの事を成し遂げた達成感喜びというのは私の宝物となった。

イラストを描くという仕事は基本的に一人だ。企画に沿ってクライアントのご希望にこたえていかなければならないが「描く」作業は自分自身と向き合う。一般的な仕事に比べると一人で成しえなければならぬ時間が圧倒的となる。

日本イラストレーター協会は、そんな孤独になりがちなアーティストの集団だからこそ協会では年間を通して交流会を持ち、企画を立ち上げ皆で作りに上げる事を提唱している。

知らない人と会おうのは骨が折れる。こんな私でも交流会で初めて出会う人にはかなりの緊張を強いられる。しかし色々な方と話をしていく中でたくさんの方を感じ取ることが出来る。一人でいてはこの感覚は得られない。青空にはためいた豹を見た時の気持ちを、大人になった今も持ち続けたい。

協会員皆様のご協力と参加で、ささやかでも豊かな夢を描いて行ける事と思えます。



理事おじやりりか (東京都)

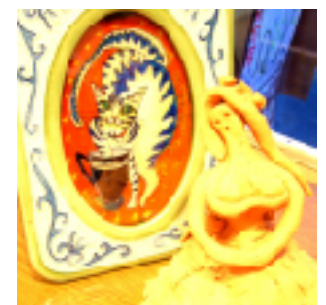
画廊業をスタートして二年、今までよりも、更に絵を見る機会が増えてきた。イラストレーターという職業では、絵が上手いのかどうか、クライアントさんの要望に合っているのかどうかということが一番重要だ。

作家になりたいのであればどうか。その人にしか作れない作風になっているのか、蒐集家の好む作品にまで昇華できているのか、リアルなのであれば、写真以上なのか。まあ、そういうところを見る。

作家さんと話していて、もしくは、作品を見ていることは、ちゃんとイラストを見たことが無い人が多いってことかなあ。(もちろん、とんでもなく天才的な人も大量に來ます。念のため。)イラストとは何ぞや。商業美術・商業デザインとは何か。

可能であれば、原画や、展示を見る方がいいのだが、イラスト作家さんの作品の展覧会は、そんなには多く開かれない。苦心しても、図録を手に入れれば、未知の世界が広がってゆき、自分の作品の稚拙さに必ず気づかされる。もっと力上げるために、業として、何をすればいいのかも考えるようになる。

横須賀美術館の中に、谷内六郎館ができた。まだ見たこと無い方は、訪ねてほしい。展示室には、大ききの揃った原画が展示されていて、本当に心が優しくなる。私は、彼の図録をいつも手元に置き、イラストを描く前によく眺めている。何かしら新しい案が浮かんでくるし、その



作風の広さや大きさに学ばされるからである。オスメの作家さんは、他には、真鍋博さん、宇野亜喜良さん、山本容子さん、横尾忠則さん、熊谷守一さん、池田満寿夫さん、佐野繁次郎さん、さくらももこさんなんかかなあ。若い方は、一人も知らないってこともあったりして笑。

先輩方の図録を見れば、見るほうは、描く方より、ずっと眼が肥えている。(イラストのギヤラを支払うのであれば、もっと肥えている。)そういう、眼の肥えた人を、ハッとさせる、そんなイラストにならなければならぬということがよく解る。

絵の道というのは、いつまでも精進して、どんどんと良くなってゆく道だ。止まったり、悪くなったり、昨日と同じではダメなのだ。

アタシは、イラストレーションというのは、もっと面白いものだと考えている。『面白いイラストって、何だろう。』イラストを描く時には、いつもここに戻る。

自分の表現の力が不足しているのは仕方ないとしても、見た人が、ププと噴き出すぐらいの仕掛けは入れたいと、常々思っているのである。そういう作家の意志は、絵に必ず現れてしまうものだし、そうでない絵なのであれば、もっと学ばなければならぬ。



理事 小加本行広 (神奈川県)

協会の皆様、はじめまして。本年度、理事を務めさせていただきます小加本行広(こがもとゆきひろ)と申します。理事という大役を拜命させていただきました、身に余る光栄に存じます。

島根県浜田市という田舎で生まれ育ち、文化芸術創造都市の横浜へやってきて十年が経とうとしています。昔も今も”ハマツ子”なんです。

幼少の頃から絵が好きで、いつしか自然と『絵描き屋さん』になりたいという夢を抱くようになりました。

スケッチブックと鉛筆を持ち歩き、時間があればどこでも絵を描いているような子供でした。描いては友達へ見せ、反応を楽しんで、絵を通してコミュニケーションをとっていました。

『描いた絵を通して、人と人が繋がる。そんな絵をいつまでも描き続けていきたい。』いつしかそのような夢というか、思いが芽生えるようになりました。

その夢は、何年経っても色褪せることなく、むしろどんどん強くなっていきました。そんな時、JIAと出会い、夢への第一歩を踏み出すことができました。

協会へ入会してから二年が経とうとしています。これまでデザインフェスタやブックフェア、協会展など、様々な企画へ参加させていただきました。



どれも個人では出来ないような大きなイベントばかりで、協会に携わる多くの方の力があつたらこそ成功したものだと思っております。やはり、ひとりでは活動してはなかなか感じられない、人と人との繋がりがという、とても大切なものを感ずることができました。

自分が今イラストを描いていられるのは、JIAの活動だったり、仕事をいだけるクライアントの方、企画展をさせていただけるギャラリーの方、グループ展を出来る仲間、周りの色々な方のサポートや協力があつてこそだと思っております。その”つながり”全ては僕自身の大きな財産となっております。

イラストレーター同士が繋がり、それぞれが良い影響や刺激を受け、レベルアップしていく。そんな中で、自分自身もイラストレーターとして、一人の人間として、少しは成長できたんじゃないかと思っております。

このような素晴らしい活動と発展を続けていくJIAを、理事としてサポート出来ることを大変光栄に思っております。自分の活動の信念としている”つながり”を大切に、仕事や交流、何よりイラストを通して、人と人が繋がって大きなものになっていくような企画や提案が出来ればと考えております。

1年間どうぞよろしくお願ひいたします。



理事 零月那未 (神奈川県)

JIA会員の皆様こんにちは。三期目の理事を拜命いたしました零月那未です。

昨年度は精力的にいろいろな展示会に参加し、ありがたいことにお仕事も様々なジャンルのものを手がけさせていただきました。一見、これは私には合わないと思われ、ご依頼も数多くいただきましたが、終わってみると、それらの全てに無駄は一つもなく、不思議なことに自身自身の絵に戻ったとき、思わぬところでそれまで抱えていた苦手意識から開放されているという経験もいたしました。

自己の画風の完成度をより高めるためには、日々描き続け努力あるのみと思つてまいりましたが、全く違う、自分の外側にあると思われるものに着手することで、実は全然方向違いではなく、同じ中心に向かっているのだというのに気づいたことは大きかったと思っております。

結果、今まで苦心していたものが実に簡単に表現できるようになってきました。まっすぐ進めば険しい道も、一見回り道に見えるところに簡単に開く扉があることもあるのだなと実感している次第です。

さて、今年はいくつかのアイデアを元に展示会の企画をしていきたいと思っております。すでにこの六月に「ふたこま絵本展」の開催が決定しておりますが、他にも面白そうな企画を練っている最中です。

ただテーマを元に作品を飾るだけでなく、そこに一つ二つイラストを加えることで、クリエイター側も参加の意義を見



出し、なにより見に来てくださるお客様に楽しんでいただける企画ができればと願っております。

私のコンセプトは「全てよし」です。イベント企画をするにあたり、その企画内容が、ギャラリー側にとってよし、クリエイター側にとってよし、お客様にとってよし、そして企画側にとってよしでなければ意味がないと思っております。

この4つは欠かせないバランスで、そのどの一つが欠けても展示会は開催できません。そしてそのどこかにしわ寄せがあるようでは成功とはいえないと思うのです。まずは企画者である私がわくわくすること、そしてそれに共鳴してくださるクリエイターの皆様の参加費用がリーズナブルであること、そして面白いイベントならお客様も楽しめますし、お客様が多く来場してくださればギャラリー側にとっても有意義なものとなります。この信念をベースに企画したものが成功しないわけがないとすら思っているのです。

それにはまず、魅力的なアイデアを投下していく必要があります。もし皆様がふとしたひらめきで、こんなのが面白そうだから、こんなのやってみようというのをごいしましたら、是非ともお聞かせ願えればと思っております。意外性の中に眠る可能性を引っ張り出してまいります。本年度もどうぞよろしくお願ひ致します。



理事 高橋和会
(東京都)

皆様、こんにちは。高橋和会です。どうぞよろしくお願ひ致します。

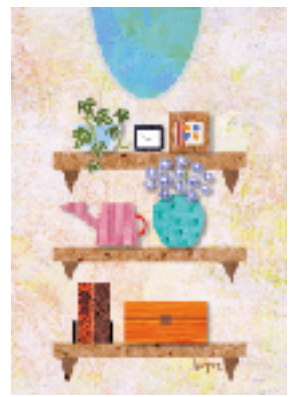
私の場合、理事と申しまして、会員の皆様が生躍されるための黒子としてお手伝いさせていただくのが役目とおもっております。もちろん、自分自身も大いに楽しんで活動させていただこうと思っております。

まず、ごく簡単に私が何者か紹介させていただきます。私は、ごく普通の大学の就職活動時に、なぜかイラストレーターになろうと思いましたが、個人のアシスタントから始めました。デジタルの流れを感じ、ZWSIでデザインとイラストの仕事ができる会社を渡り歩いて来ました。

今まで様々なアプリケーションを使ってきた中で、特に、イラストレーターとフォトショップは長い付き合いです。両方を使用した合もを行います。印刷知識も自然に付きました。

地方から東京へ出てからも長い間、勤め人と同じような生活をしておりましてある日JIAのリンクを見つければ、フリーランスになる物差しとして会員に応募し、運良く迎えていただくことができましたので、数ヶ月後思い切って独立いたしました。

イラストレーターとしてのキャリアも実力も課題山積ですが、私の強みとしてイラスト以外に、企画・デザインのスキルと、人に会うのが好きな営業好きという特性がございます。何とか生き延びております。



そんな中で、発見や改善方法を見つけても多くの皆様にもその辺を還元していけたらと思っている次第です。制作については、自分で試行錯誤して頑張らなければなりません。どんなによい作品をお持ちでも、知ってもらわなければ世に出ることはできません。JIAは、皆様の活動をサポートする温かみで心強い団体です。今後とも積極的にご参加いただけるよう、願っております。

仕事以外の紹介ですが、趣味はインテリアや雑貨の店を見て歩くことです。好きなエリアは、表参道、南青山あたりや、再開された東京駅前近辺です。例えば、丸ビルの中にある『コンランショップ』ですね。

他には、某サッカーチームの応援をしておりますが、たまにしか行けないので、最近では旧友と会うのが楽しみゆえにサポートです。カラオケも好きです。

フリーランスになると、制作・営業・会計と全部に責任が伴います。不安やストレスも副業と比べ大きくなりがちです。そんな時、仲間がいると、とても励みになります。刺激も受けます。

また、新しい出会いが増えて、時には奇跡に思えるようなうれしい出来事も経験できますよ。皆様とこれからの喜びを分かち合えることに感謝致します。



理事 つしまひろし
(東京都)

日本イラストレーター協会の皆様、はじめまして。

本年度理事を勤めさせていただくことになりました。「つしまひろし」と申します。入会二年目の若輩者で、まだ何が出来るか分かりませんが、皆様と一緒に協会を盛り上げていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひ致します。

まずは自己紹介がてら、自分の経歴を振り返ってみたいと思います。小さい頃から絵を描くのは好きでしたが、その頃は単なる趣味としての意識しか無く、それがまさか職業になるとは思ってもみませんでした。

学生時代は映像関係の仕事に就きたいと思い、大学で自主映画を撮りつつ、テレビ番組のADをやったりしていました。これが想像以上に過酷な仕事だったため、身体を壊して辞めることになりました。楽なバイトは無いかな、という不純な動機で求人雑誌を探したところ、とあるデザイン会社にイラストレーターとして入ることが出来ました。

今では考えられないことですが、当時はパブルの絶頂期だったこともあり、素人同然の私がイラストレーターになれたことは非常にラッキーだったと思います。

最初は「趣味の絵」と「仕事の絵」とのギャップに戸惑いましたが、先輩からのアドバイスや、数多くの仕事をこなすことでノウハウを覚えることが出来、美術関係の学校に行っていない私にとっては、貴重な勉強をすることが出来ました。こうして自信をつけた私は、休学していた大学を辞め、本格的にイラストレーターとしての活動を始めたのです。



その後、広告関連会社、キャラクターデザイン会社等を渡り歩き、様々なジャンルのイラストを描き続けながらスキルを磨きました。

約十年間の会社員イラストレーターを終え、フリーになったのは今から八年前のことです。

結婚して子どももいましたし、三十五年ローンで家を買ったばかりだったので、不安もありましたが、自分自身の力を試したいという気持ちが強くなり、思い切って独立することを決めました。

とは言っても、最初の頃は殆ど仕事も無く、苦しい生活が続く、フリーのイラストレーターとして生計を立てることの厳しさを思い知らされました。

それでもなにより構わず毎日の様にファイルを持って売り込みを続けることで徐々に仕事が増え、どんな仕事でも貪欲に取り組むことで、何とか軌道に乗ることが出来ました。

長々と書き綴ってしまいましたが、こうして好きなことが仕事になり、それを今まで続けて来たことは、大変幸せなことだと思えます。

もちろん仕事なので楽しいことばかりではありません。時流や景気の影響を受け易い不安定な仕事なので、これから先の保証など何も分からないのが現状です。

JIAに入会したのも、そういった不安を解消するためでした。同業者として互いに励まし合い、時には刺激し合える様な環境作りに貢献したいと思えます。



理事 羽尻利門 (徳島県)

八十年前に起きた世界恐慌以来の経済危機、環境破壊、新型インフルエンザの流行、政治不信・・将来がますます不透明になっていく今、絵描きという職業を選んで自分が正しいのか日々葛藤する毎日です。

その一方で、人の心を豊かにしたいという思いで絵を描いている自分にとって、社会が不安になればなるほど、自分の進んでいる道の大切さをますます実感しています。人のためなどと言うと、聞こえが良くありません。結局のところ、一度しかない人生において、自分が自分でいられる職業は、やはりこれしかないんだ、ということなのです。

私が、今の画風で絵を描き始めたのは、大学四年の頃でした。それ以前は、漫画やポスターを模写したり、通信教育でデッサンを少しかじったりと、ともに美術教育を受けたことなんてありませんでした。絵を仕事には出来ないと思っていたからです。絵を描くことは楽しい一方で、何かの模写をしているだけの自分の絵に嫌気がさして、最後まで描ききるまでに止めてしまうことが殆どでした。別段、描きたいものがある訳でもなかったのです。

そんなある日、ふと何かに取り付かれたように、描きたい場面がでてきました。自然と心の内側からある情景がでてきたのです。それは、まるで魔法のようでした。自分で自分のことが説明できないのですから。今見れば、その絵は、とても稚拙なものです。しかし、それが、今の僕の絵の原点になっています。



大学を卒業後、東京の商社へ就職しました。毎朝満員電車にもみくちゃにされ終電近くまで残業をし、帰宅後、深夜まで絵を描き続ける日々が続きました。海外出張先のホテルで描くこともよくありました。深夜まで描き、翌朝遅刻したりもしました。最初は、ただ好きだから、それだけの理由で描いていました。辛い現実を忘れる最も優れた手段だったのです。ろくに美術系の学校をでたことがない自分に劣等感を抱き、絵を仕事にしたという本音を、押さえ殺していました。

そんな折、二〇〇六年に応募した日本イラストレーター協会（JIA）のインターナショナル・コンペティションにて優秀賞をいただきました。これが、自分の人生の転換点でした。自分の絵に、少しは自信がもてるようになったのです。そして、交流会や協会の打ち上げなどで、様々なイラストレーターの方々のお話を聞き、この道で人生のど真ん中を堂々と歩んで行きたいと思うようになったのです。JIAとの出会いがなければ、今の自分はないのです。

今現在、最愛の妻の支えもあり、海に近い徳島の片田舎で、絵に専念できる毎日を送っています。東京とは、地理的に遠いですが、皆様と一緒に、協会の発展に協力していきたいと思えます。一年間、何卒宜しくお願い申し上げます。



理事 若林やすと (神奈川県)

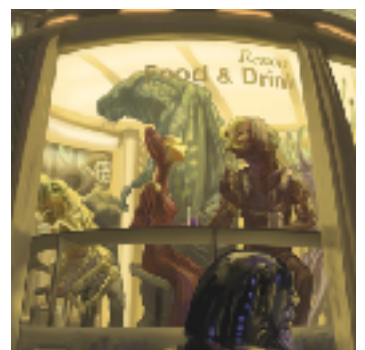
私が日本イラストレーター協会に入会させていたでいて、もう四年が経とうとしています。その間、協会展などのイベントを通じて多くの方々とお会いすることが出来ました。たとえ初対面でも、歳が離れていても、イラストという共通項があるので、どの方ともすぐに打ち解けて話すことができました。協会に入らなければ、こんなに多くのイラストレーターの方々と知り合うことはなかったでしょう。

去年の協会展の打ち上げの時のことです。たまたま隣に座ったK君と互いの実家が近いということが分かった話はずいぶんありました。そのうちに地元では協会展のようなイラストの展覧会があまり開かれなという話になりました。

私の地元の小田原には駅前に数件のギャラリーが集まっている界隈があるので、普段やっているのは、たいてい油絵などの絵画や写真、陶器の展示などです。これはギャラリーを訪れる客層が比較的年齢の高い方にかたよっているというところの一因でもあります。

そんな所でイラストレーターだけ集めた展覧会を開催したら面白いのではないかと、いつちよやりますか。と、まあそんな話をしていたのですが、その時は酒の席というところで、その場限りの話になるだろうと私は思っていました。

ところがその後すぐK君が協会の会員も含め近隣に在住する3人の参加者を集めてくれて、総勢5人でグループ展を開催することが決まりました。まず最約半年の準備期間がありました。



初のミーティングでイラストレーターらしさを出すためにテーマを決めて、各自テーマに沿った作品を描こうということになりました。その時決まったテーマが「小田原城」。これについてはその後それぞれラフを出し合って、ダブリがないか確認しました。ポスターの写真用用小田原城のプラモを組み立てたり、告知用のホームページを作ったり、また地元の実業にスポンサーになっていただいたり、わずかですが協賛金をいただくことが出来ました。このうち、お菓子屋さんに関しては商品を展覧会場で販売したりもしました。

プレスリリースを作り、小田原市役所の記者クラブに属している新聞社の支局等に配りました。ダメ元だと思っていたのですが、結果的に地元のケーブルテレビが取り上げてくれて、慣れないインタビュー取材を受けたりもしました。展覧会も好評で、何人かの方から「いままで小田原ではあまり見たことがないような展覧会だ。」というお言葉をいただくことが出来たのは嬉しい限りでした。

皆で協力してひとつのイベントを作り上げていく過程で、一人で作品を制作するのするとはまた違った達成感を味わうことができました。それもみな協会の出会いがあったからこそです。協会の人脈を通じて、仕事に限らず色々なことにまたチャレンジできたらと思っています。



理事 渡辺悟志
(茨城県)

協会の皆様こんにちは。
二期目の理事を拝命致しました渡辺悟志と申します。

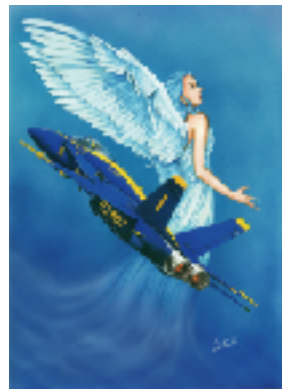
昨年もさまざまな協会主催の催しに参加させて多くのみなさんと楽しく交流をさせていただきました。

私は昨年の協会展の出展作品をきっかけに今まで封印していた飛行機を描くことを本格的に復活させたのですが、私自身も予想していなかったほどの好評を得て、それをきっかけに米海軍士官からの招きを受け十一月に新婚旅行以来、十七年ぶりの渡米を果たすなど新たなジャンルを開拓できたと思っております。

元々飛行機整備が本職であったのでこの強みを生かしていなかったのはずいぶん損をしていたのではないかと後悔はしていますが、今年はさらにジャンプアップするべく新しい作品作りに取り組んでいます。

インターネットが一般的になり国内だけでなく世界がずっと近くなってきて今ですが、去年から在日米海軍の依頼で仕事を受けることも多くなり、ここきて語学力のなさを痛感しています。日常会話ならばなんとかなってもイラストの売り込みや発注内容の確認などビジネスの話となるとスムーズに話が進まなく簡単な内容でもえらい時間を要したりするのはかなりなストレスになります。

ウェブサイトを通じてアメリカのみならずさまざまな国から問い合わせが来ることもあり、もはやこちらが好む好まざるに関わらず英語でのやり取りは必須に



なりつつあります。

視点を覚えて外に目を向けると活躍できるチャンスは無限に広がっています。見送りになりましたが香港からのイベント参加の打診が協会にもありましたし、今後もうこういった機会が増えるのではないかと思います。異文化との交流は新たなインスピレーションを与えてくれますし、海外の人達との交流が盛んになった時の心構えは今から持っていなければと実感しています。

協会の会員数も飛躍的に増えて今までできなかった事もできる環境になりつつあります。その分、新しい方の名前と顔を覚えるのが大変ですが、今後は具体的な新たな企画案はないのですが今度東京近郊に集中していた交流会や展覧会の地方開催なども将来は可能になるかも知れません。

百年に一度の不況と言われている今、どこで話を聞いてもなかなか景気のいい話が聞けません。このような時こそ協会の人脈やネットワークを有効に使っていただきたいと思います。会費を払って一年間何もしないのも無駄以外の何物でもありません。交流会や企画に積極的に参加してご自身のネットワークを広げモチベーションを上げていって下さい。

私も理事として何が出来るか改めてじっくり考え行動したいと思っております。今年も一年間、宜しくお願い致します。



理事りょう (神奈川県)

日本イラストレーター協会の皆様、こんにちは、りょうと申します。福岡県出身、東京の美大と京都の鞍馬で染織を勉強した後、商社で主にテキスタイルデザインとして従事。インテリア雑貨・ペーパー用品のデザイン企画の仕事を経験し、国内外のギフトショー・コンベンション等にも数多く参加し、ペイント講師としての経験もしてきました。

幼い頃より空白があれば、そこへ描きこむ。三度の食事よりも描く事が好きで百二十パーセントの集中力に頼って描くという天然素材で、子供の頃は、描いた絵が皆から賞賛される事が当たり前となっていました。しかし、たとえ素晴らしい絵が描けたとしても現実使用されなければ直にゴミ箱行きとなってしまふ事は今は、何度も経験しています。

随分昔の話になりますが、タオルの会社で百貨店向けにプレゼンをしていた頃初めてエコという言葉に出会いました。イメージ柄としては木々・石ころ・大地でした。しかしせっかく良いプレゼンをしていても外注を探さなければ商品化できません。どちらも「勿体ない」話で自慢にはなりませんが、デザインが次々と商品化された順風満帆の時を思い出しますと、自分の努力だけでなくその時々々の良きアドバイザーが舵取りをしていた事。恵まれた環境にあった事に気がかされます。

今思えば、JIAに入会させて頂いた時も、理事に拝命した時も、私にとつて一番辛い時期でした。これから新しくスタートする自分への、会員の皆さんへの



良きアドバイザーがJIAではないかと勝手ながら確信したりしています。今まで交流会やイベントの参加で楽しませて頂いた分、何か私に出来る事で、お返しが出来ればと、自負している次第です。どうぞ宜しくお願い致します。

さて私に何が出来るのか過去の自分を振り返って見ますと、ステーションナリー雑貨の販売促進の仕事に多く携わっていた事を思い出します。小物雑貨が殆どです。特に実演販売が一番多くありました。イラストレーションの場合、商品の説明は要らないと思いますが、どのような所に使用されるのか、プレゼンが必要だと思えます。webサイト作りも言語のみを使用して、HPをいくつか作っていました。これも即座にブラウザ上でデモンストレーションする方法です。

今から、これから、と連発してしましますが、実は今までゴミ箱行きになったものを拾い集めています。まだ受け継ぐものもあるはず。石ころが宝石にも変わる事もあるはず。実際に先日、銀座の画廊にアクリル絵具でリメイクした雑貨を出展させて頂いたところ、予想外に完売していました。

もちろん新しいアイデアも溢れ出しません。受け取る側も千差万別、「勿体ない」を沢山のメディアに出して、これからも会員皆さんの作品が様々な人の目に留まる事を期待しています。



理事長 蟹江隆広
(東京都)

一九九九年に日本イラストレーター協会を設立してから、はや十年になります。二〇〇八年には百三十四名の方達が新たに入会して下さいました。二〇〇九年六月現在の会員数は三百九十名を超えています。

会員数の伸びに比例して、日本イラストレーター協会の認知度も飛躍的に上がってきているように感じます。名実ともに日本を代表するイラストレーターの団体になったと言っても過言ではありません。

ヤフーやグーグルといった検索エンジンで「イラストレーター」を検索すると日本イラストレーター協会のサイトは上位表示されています。これはGMOを研究した成果であり、偶然ではありません。しかしながら、もう少し利便性を高めて欲しいという意見があるのも事実です。

例えば、「作品展示ギャラリー」のページに展示できる作品数を増やして欲しいといった意見や、「会員リスト」からだけでなく、ギャラリーの各会員のページからもリンクして欲しいという意見です。

これらの意見に関しても以前より検討してきました。現在ではサーバの容量も増やし、より多くの画像を収録できるようになりました。会員数が増えたことにより、会費も増え安定した運営ができるようになりました。それに伴い事務局の仕事も非常に多くなっています。

事務局の負担を減らす為にも、日本イ

ラストレーター協会がコーディネートする仕事の割り合いを減らし、クライアントから直接イラストレーターに発注して頂く割り合いを増やしていく必要性を感じています。

「作品展示ギャラリー」に展示できる作品数は年会費の更新ごとに増やしていくシステムに二年ほど前から変えています。日本イラストレーター協会に在籍している年数が長い人が有利になるシステムです。

この六月より、ギャラリーの各会員のページから本人のサイトにリンクを貼る作業を開始しました。これにより、クライアントが一旦「会員リストを開いてからでない」とジャンプできなかった本人のサイトがすぐに見られるようになります。ウェブサイトがない人が著しく不利になることのないよう、希望者のみメールアドレスも掲載することにしました。

現在ではイラストレーターを探す為のサイトも数多く見られます。今後「イラストレーター」を探す時には、まず「日本イラストレーター協会のサイトを見る」と、多くのクライアント様にご利用して頂けるよう改良を続けていきたいと思えます。

昨年の会報でお知らせしましたように昨年の秋ごろに事務局の移転をする予定でしたが、リーマンショックによる景気の悪化による収入減を予想して、しばらく様子を見ることにしました。



二〇〇八年度 会計報告

(二〇〇八年一月一日～二〇〇八年十二月三十一日)

収入の部

売り上げ	11,901,288
年会費継続	1,322,000
コンペ入選者の入会	96,000
その他入会	1,298,000
コンペ出品料	801,500
協会展参加費	415,000
年鑑参加費	330,000
国際ブックフェア参加費	1,050,000
雑収入	4,372
総収入	17,228,160

前年度より繰り越し	552,771円
今期計上黒字	170,816円
来年度に繰り越し	723,587円
2007年度 新規入会者	134名
2007年度 退会者	60名
継続	222名
2008年12月31日会員数	356名

支出の部

荷造運賃	123,730
水道光熱費	101,644
旅費交通費	106,750
通信費	154,140
広告宣伝費	1,164,452
接待交際費	385,812
損害保険料	19,980
福利厚生費	145,595
消耗品費	421,210
地代家賃	960,000
雑費	93,071
事務局人件費	2,400,000
理事報酬	292,210
アルバイト料	58,500
コンペ審査員報酬	75,000
コンペ賞金	540,000
イラストレーターに支払い	10,015,250
総支出	17,057,344

日本イラストレーター協会の歩み

- 一九九九年 四月 設立
四月 ホームページの開設
- 二〇〇一年 一月 JIA通信を開始
- 二〇〇〇年 六月 第一回イラストコンペ開催
十二月 年度賞の制定
- 二〇〇一年 六月 第二回イラストコンペ開催
十二月 二〇〇一年度賞
- 二〇〇二年 六月 第三回イラストコンペ開催
十二月 二〇〇二年度賞
- 二〇〇三年 六月 韓国出版美術協会と交流会を開催
六月 第四回イラストコンペ開催
十二月 二〇〇三年度賞
- 二〇〇四年 四月 JIAのロゴを制作
六月 第五回イラストコンペ開催
十月 会員数が百名を突破
十二月 二〇〇四年度賞
- 二〇〇五年 三月 事務局を新宿区に移転
四月 認定証と会員証の発行開始
五月 第一回日本イラストレーター協会展
六月 第六回イラストコンペ開催
十二月 二〇〇五年度賞
- 二〇〇六年 一月 第一回会報発行
五月 第二回日本イラストレーター協会展
六月 第七回イラストコンペ開催
六月 第二回会報発行
十二月 二〇〇六年度賞
十二月 日本イラストレーター協会年鑑をCDで作成
- 二〇〇七年 一月 第三回会報発行
三月 第四回ZEN展に参加
五月 第三回日本イラストレーター協会展
六月 第八回イラストコンペ開催
六月 大阪で交流会(ユニバーサル・スタジオ・ジャパン)
十一月 第二十六回デザインフェスタに参加
十二月 二〇〇七年度賞

二〇〇九年イベント

- 二〇〇八年 三月 第五回ZEN展に参加
五月 第四回日本イラストレーター協会展
六月 第四回会報発行
六月 第九回イラストコンペ開催
七月 第十五回東京国際ブックフェアに参加
十二月 二〇〇八年度賞
- 一月 日本イラストレーター協会年鑑二〇〇九ダウンロード開始
- 二月 二〇〇八年、年度賞の発表
第九回イラストコンペ入選者による作品展
- 三月 第五回ZEN展に参加
交流会(花見)
- 四月 新理事の就任
- 五月 第五回日本イラストレーター協会展
オープニングパーティーと打ち上げ
- 六月 第五回会報発行
- 七月 第十回イラストコンペ開催
交流会
- 八月 第十回イラストコンペ入選作品展(おじゃら画廊)
交流会(納涼会)
- 九月 交流会
- 十月 交流会
- 十一月 交流会
- 十二月 二〇〇九年、年度賞の作品募集